

1 評価

評価の概要
宇部工業高等専門学校アセスメントプラン（自己点検表）基準1から基準10までの点検項目について、実施状況（各部署による自己点検結果）を「S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である」の4段階で評価した。 各基準の自己点検に対する評価の概要を以下に示す。 （基準1）教育の内部質保証システム ・良好と判断する。 ・「宇部工業高等専門学校における自己点検・評価に関する基本方針」に基づき、令和5年度の自己点検・評価を実施し、令和6年6月に本校Webサイトにて令和5年度自己点検・評価結果を公表した。 ・物質工学科のカリキュラム変更に伴い、学習・教育到達目標の一覧を修正した。 （基準2）教育組織及び教員・教育支援者等 ・概ね良好と判断する。 ・5月にアクティブラーニングを導入する意義、10月に機能強化支援事業やグローバル人材育成等についてFDを実施し、各科において、特に今後の情報教育に係るカリキュラムの検討を進めることとした。 （基準3）学習環境及び学生支援等 ・概ね良好と判断する。 ・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。 ○物質工学科では、実験の実施方法の申し合わせ事項に基づいて実施しており、学生実験で使用するすべての実験室においてディスプレイを追加し教育効果の向上を図った。【3-4】 ○ICT環境に対する満足度の調査を、2月に全学生対象でFormsで実施した。【3-12】 ○技能検定を新たに支援対象に追加し、資格取得者の増加を図り、受験者に対して技術指導を実施した。【3-29】 ○就職及び進学が決定した現5年生に対し8月にアンケートを実施し、キャリア教育の効果を調査した。その結果を踏まえ、ジェネリックスキルにおけるキャリア教育に関する内容の見直しを行った。第3学期のジェネリックスキルにおいて、一部内容を変更し、キャリア教育を実施した。【3-32】 ○就職進学活動ガイドブックの内容を見直し、大幅な改訂を行った。合同企業研究会、「就職・進学活動のメンタルヘルス講習会」を実施した。【3-33】 ○6月から、課外活動巡視員を2名雇用し、土曜日のクラブ活動における安全管理体制の整備を行った。【3-36】 ○白鳥寮において、寮生会主催で週に1回程度、低学年生を対象とした勉強会を実施した。全20回行い、1回当たり約90分、高学年の寮生7～8名が講師として指導等を行った。【3-38】 ○いじめ対策委員会と学生支援センターとの協力体制により、いじめ防止及び早期発見に努めている。【3-40】 （基準4）財務基盤及び管理運営 ・良好と判断する。 ・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。 ○予算WGの答申を受けて、「今後の予算方針について」を策定し、予算に関する基本方針等を定めた。本方針に基づき予算配分を行うとともに、今年度から、経費節減策及び増収のための方策を実施している。【4-4】 ○危機管理マニュアルについて、目次と本編の冒頭に「学生の重大事案等対応の手引き」の参照について記載した。「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制（高専→機構本部）」及び「宇部高専災害物品リスト」を更新した。また、「宇部工業高等専門学校における災害対策について」を定め、災害時の管理体制及び災害時用備蓄物資の確保・更新について明文化し、マニュアルに統合した。【4-16】 ○外部資金を獲得する取り組みとして、KRAによる説明会を開催し、学内外の科研費ブラッシュアップを実施した。【4-18】 （基準5）準学士課程の教育課程・教育方法 ・概ね良好と判断する。 ・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。 ○アントレプレナーシップ教育の導入を推進している。プロジェクト学習に11件のアントレ課題を設定し実践した。さらに、宇部市高校生ビジネスプランコンテストに3グループがエントリーし、優秀賞を受賞した。宇部市SDGs私たちの未来共創補助金に3つの学生グループが採択された。第2回高専起業家サミットで3件の学生グループが発表した。また、ジェネリックスキルにおいてもアントレプレナーシップに関する2本の動画を公開した。海外・語学研修等の海外渡航者数が100名を超え、オンキャンパスの活動もU-Camp等を加え充実した。前年度よりも多くの学生が留学し、グローバルエンジニア育成事業に係る学生数が増えている。【5-6】

（基準 6）準学士課程の学生の受け入れ

- ・良好と判断する。
- ・令和 6 年度推薦選抜試験による合格者について、APに従った面接評価点を抽出し、それぞれ優秀な評価点を得ていることを確認することができたため、採点基準は適切であると判断した。

（基準 7）準学士課程の学習・教育の成果

- ・良好と判断する。
- ・本年度の就職率及び進学率は、共に100%と高い就職率・進学率を維持しており、本校の学習・教育の成果が認められる。

（基準 8）専攻科課程の教育活動

- ・概ね良好と判断する。
- ・本年度の就職率及び進学率は、共に100%と高い就職率・進学率を維持しており、本校の学習・教育の成果が認められる。
- ・準学士課程のカリキュラム改善を受け、令和 5 年度より準学士課程の教育を発展させた新カリキュラムとなっている。現カリキュラムの課題については各学科に審議依頼するとともに専攻科1年生に対しアンケートを実施し、その結果を専攻科委員会で報告した。

（基準 9）研究活動の状況

- ・良好と判断する。
- ・本校の目的・方針に沿った研究活動を実施しており、これらの成果を地域共同テクノセンターNews & Reportに集約し、公表している。
- ・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。
○研究活動の目的を達成するため、校長裁量経費申請要件を見直した。【9-2】

（基準10）地域貢献活動等の状況

- ・良好と判断する。
- ・本校の目的・方針に沿った地域貢献活動を実施しており、これらの成果を地域共同テクノセンターNews & Reportに集約し、公表している。
- ・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。
○U-16プロコン山口大会及びそれに伴う事前講習会を実施し、協賛企業が増加した（21社→27社）。また、2月28日に開催したテクノカフェにおいて18件の学生の取組をT&B会員企業に紹介した。【10-3】

2 改善を要する点

改善を要する点

B評価で改善を要すると判断した点は、以下のとおりである。

（基準 3）学習環境及び学生支援等

- 3-3 実習工場の旋盤の主要稼働装置に不具合が生じており、1台使用できない。そのため、数年前に使用していた旋盤を稼働している状況である。

（基準 5）準学士課程の教育課程・教育方法

- 5-12,17,18,21,22 一部の学科から「成績評価資料点検時までに資料作成が間にあわなかった科目があり確認できない科目があった。早期に作成するよう促すとともに、提出後改めて点検を行うこととした。」と回答があった。

（基準 8）専攻科課程の教育活動

- 8-6,11,15,16 一部の学科から「成績評価資料点検時までに資料作成が間にあわなかった科目があり確認できない科目があった。早期に作成するよう促すとともに、提出後改めて点検を行うこととした。」と回答があった。

令和6年度宇部工業高等専門学校アセスメントプラン（自己点検表）

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
基準 1 教育の内部質保証システム			
【内部質保証】			
1-1 自己点検・評価の方針は関係法令に適合しているか。	自己点検・評価の方針が関係法令に適合しているか確認する。	自己点検・評価の方針が関係法令に適合していることを確認した。	A
1-2 自己点検・評価の体制（委員会等）に不備はないか。	委員会等の構成を確認する。	適切な体制となっていることを確認した。	A
1-3 自己点検・評価の基準や項目は適切であるか。	学校教育法第109条に沿った自己点検・評価の基準及び項目となっているか点検する。	適切であることを確認した。	A
【自己点検・評価の実施】			
1-4 文書管理規則に従い、資料は適切に管理・保管されているか。	文書管理規則に従い、適切に管理・保管する。	文書管理規則に従い、各部署において適切に管理・保管している。	A
1-5 自己点検・評価を定期的の実施し、その結果を公表しているか。	自己点検・評価を実施し、公表する。	令和5年度に係る自己点検・評価を実施し、6月にHPにて公表した。	A
【学内意見聴取】			
1-6 自己点検・評価は教員の意見を反映しているか。	教員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	授業改善アンケート報告書兼授業改善計画書及び職務上の活動に関する自己申告書を評価結果に反映した。	A
1-7 自己点検・評価は事務職員の意見を反映しているか。	事務職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	各部署の点検結果を評価結果に反映した。	A
1-8 自己点検・評価は技術職員の意見を反映しているか。	技術職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	実験室・演習室の整備状況等の評価結果を反映した。	A
1-9 自己点検・評価は学生の意見を反映しているか。	学生への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	学生に対する各種アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
1-10 自己点検・評価は学生の授業評価の結果を踏まえて行っているか。	学生の授業評価の結果を自己点検・評価に検討・反映する。	授業改善アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
1-11 自己点検・評価は学生の教育・学習の達成度を踏まえて行っているか。	学生の教育・学習の達成度を自己点検・評価に検討・反映する。	卒業・修了時アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
1-12 自己点検・評価は学生の学習環境を踏まえて行っているか。	本校の教育に関するアンケートを実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	卒業・修了時アンケートの集計結果を評価結果に反映した。	A
1-13 自己点検・評価は学生の満足度を踏まえて行っているか。	学生の満足度を自己点検・評価に検討・反映する。	卒業・修了時アンケート及び授業改善アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
【学外意見聴取】			
1-14 自己点検・評価に際し、保護者の意見を反映しているか。	保護者への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	評価結果に反映するか検討した。	A
1-15 自己点検・評価に際し、卒業生の意見を反映しているか。	次回は令和7年度に実施予定である。	令和4年度にアンケート実施し、令和5年度の自己点検・評価に反映した。次回は令和7年度に実施予定。	A
1-16 自己点検・評価に際し、就職先企業の意見を反映しているか。	次回は令和7年度に実施予定である。	令和4年度にアンケート実施し、令和5年度の自己点検・評価に反映した。次回は令和7年度に実施予定。	A
1-17 自己点検・評価に際し、進学先教育機関の意見を反映しているか。	進学先教育機関から意見を収集・検討し、自己点検・評価に反映できる仕組みを整備する。	令和7年度に自己点検・評価に反映できる仕組みを整備予定。	A
1-18 自己点検・評価は卒業生・修了生の学習成果の効果を踏まえて行っているか。	次回は令和7年度に実施予定である。	令和4年度にアンケート実施し、令和5年度の自己点検・評価に反映した。次回は令和7年度に実施予定。	A
1-19 自己点検・評価は就職先・進学先における学習成果の効果を踏まえて行っているか。	本校の教育に関するアンケートを実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	令和4年度にアンケート実施し、令和5年度の自己点検・評価に反映した。次回は令和7年度に実施予定。	A
1-20 自己点検・評価結果を改善に結び付ける体制となっているか。	各委員会が自己点検・評価結果を改善に結び付けることができる体制となっているか確認する。各部署の改善の取り組みを集約し、報告する。	各委員会が自己点検・評価結果を改善に結び付けることができる体制となっていることを確認した。	A
1-21 前回機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続しているか。	令和2年度機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続する。	令和5年度自己点検・評価結果を6月にHPにて公開した。また、試験における同一出題の防止、シラバスに沿った評価の徹底について、継続して各学科で取り組んでいる。	A

S：特に優れている　A：良好である　B：概ね良好である　C：不十分である　－：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
1-22　運営諮問会議における指摘・コメントに対する対応を行っているか。	運営諮問会議において意見を聴取し、その課題に対する改善を行う。	ハラスメントや多様性への配慮について、自己点検項目に追加すべきか、社会情勢を鑑みながら、継続的に検討していくこととした。	A
【3つの方針】			
1-23　学習・教育目標は適切であるか。	学習・教育目標は適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	教務委員会で審議して適切であると判断した。今年度の変更はしないが、DPとの位置づけについて議論することとした。 専攻科委員会で各学科に審議を依頼し、各学科の審議結果を報告した。これにより今年度の改正はしないことが承認された。 物質工学科のカリキュラム変更に伴い、学習・教育到達目標の一覧を修正した。	A
1-24　ディプロマポリシーは適切であるか。	DPが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	教務委員会で審議して適切であると判断し、今年度に変更しないこととした。また、DPの到達度調査により、学年に伴う伸長を確認した。 専攻科委員会で各学科に審議を依頼し、各学科の審議結果を報告した。これにより今年度の改正はしないことが承認された。	A
1-25　カリキュラムポリシーは適切であるか。	CPが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	教務委員会で審議して適切であると判断し、今年度に変更しないこととした。 専攻科委員会で各学科に審議を依頼し、各学科の審議結果を報告した。これにより今年度の改正はしないことが承認された。	A
1-26　アドミッションポリシーは適切であるか。	APが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	令和8年度入学者選抜試験より推薦による選抜において自己推薦による出願を可能とすること、帰国生徒特別選抜の選抜方法を変更することから、入学試験委員会においてA Pを見直した。 専攻科委員会で各学科に審議を依頼し、各学科の審議結果を報告した。学力選抜の実施方法に変更があったため、A Pを一部改正した。	A
基準2　教育組織及び教員・教育支援者等			
【教育に係る組織の体制】			
2-1　学科・専攻の構成は適切であるか。	学科・専攻科の構成が適切であるか審議する。	適切であると判断した。	A
2-2　教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか。	教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか審議する。 教育活動を展開するための各種委員会を適切に開催する。	各種委員会、学科会議を定期的に開催している。	A
【教員】			
2-3　一般科目の教員配置は適切であるか。	一般科目の教員配置が適切であるか検証する。	適切であると判断した。	A
2-4　専門科目の教員配置は適切であるか。	専門科目の教員配置が適切であるか検証する。	適切であると判断した。	A
2-5　教員の採用は公募により適切に行われているか。	公募により教員の採用を行う。	公募により採用を行っている。	A
2-6　教員の昇任は適切に行われているか。	教員の昇任を適切に行う。	人事委員会での審議を経て、昇任人事を行っている。	A
2-7　教員の評価は適切に行われているか。	教員の評価を実施する。	教員相互評価、学生による教員評価、自己評価、教員ヒアリングで適切に実施した。	A
2-8　教育方法に関するFDが実施されているか。	教育方法に関するFDを実施する。	5月、10月に教員F Dを実施した。	A
2-9　FDが教育の改善に結び付いているか。	FD後にアンケートを実施し、教育が改善されているか確認する。	5月にアクティブラーニングを導入する意義、10月に機能強化支援事業やグローバル人材育成等についてFDを実施し、各科において、特に今後の情報教育に係るカリキュラムの検討を進めることとした。	A
【教育支援者】			
2-10　教育支援者（事務職員、技術職員、図書館職員）の配置は適切であるか。	教育支援者の配置が適切であるか検証する。	業務状況に応じて、適宜見直しを行っている。令和7年度の技術職員の新規採用は、応募者不足のため見送った。令和8年度は改めて募集するが、状況により選考採用となる場合がある。退職者の業務の振り分け、改善策として、高専の5年生に技術室の業務の説明会を行い、採用までの流れを合わせて紹介することで、卒業生の確保を目指す。	A

S：特に優れている　A：良好である　B：概ね良好である　C：不十分である　－：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
2-11　教育支援者に対するSDが実施されているか。	学内SDを実施する。また、高専機構等主催のSDに参加する。	事務職員の業務能力向上・業務理解促進のため、各課課長補佐、係長または主任を講師とする学内SDを6月～12月に、技術職員の技術能力向上の為、技術職員を講師とする学内SDを3月に実施した。また、教職員の業務のDX化推進に資するため、2月～3月に学外から講師を招聘しSDを実施した。その他に、高専機構や大学、人事院主催の研修に参加させた。	A
基準3　学習環境及び学生支援等			
【施設・設備】			
3-1　校地面積は適切であるか。	校地面積が適切であるか検証する。	設置基準に定められた面積を満たしており、必要な施設を有している。	A
3-2　校舎面積は適切であるか。	校舎面積が適切であるか検証する。	設置基準に定められた面積を満たしており、必要な施設を有している。	A
3-3　実習工場は適切に整備されているか。	機械工作実習に必要な設備・機材を整備・準備する。	実習における安全のために、衝立を設置した。実習内容によっては、金属の切り屑が飛散するため、各旋盤で作業する学生の安全確保を行った。市販品では要件を満たすものが無いため、材料を購入し技術職員が製作した。（製作台数5台）本年度は主に技能検定に関わる実習で使用した。 旋盤の主要稼働装置に不具合が生じており、1台使用できない。そのため、数年前に使用していた旋盤を稼働している状況であり、現在修理に必要な予算の措置をお願いしている。	B
3-4　各実験室は適切に整備されているか。	実験に必要な設備・機材を整備・準備する。	物質工学科では、実験の実施方法の申し合わせ事項に基づいて実施している。学生実験で使用するすべての実験室においてディスプレイを追加し教育効果の向上を図った。	S
3-5　各施設・設備の安全衛生管理体制は機能しているか。	定期的に安全衛生委員会を開催する。	月1回安全衛生委員会を開催している。	A
3-6　バリアフリー化への配慮を行っているか。	バリアフリー化への配慮を継続する。	現在必要とされている範囲の整備は完了している。	A
3-7　施設・設備に関する満足度を調査しているか。	施設・設備に対する満足度を調査する。	アンケートを実施した。	A
3-8　施設・設備の満足度を向上するための改善を行っているか。	満足度を向上するための改善を行う。	継続的に改善を実施している。今年度は、熱中症対策のため、各教室にサーキュレーターを配置した。	A
【ICT環境】			
3-9　ICT環境の整備は適切であるか。	ICT環境を適切に整備する。	無線APの増設、SSO（シングルサインオン）の拡充、学生アドレスを宇部高専ドメインに変更等を実施した。	A
3-10　ICT環境のセキュリティ管理体制は適切に機能しているか。	情報セキュリティ管理を徹底する。	各種委員会を開催し、対応している。	A
3-11　ICT環境は有効に活用されているか。	ICT環境を有効利用する。	利用実績等を収集している。	A
3-12　ICT環境に対する満足度を調査しているか。	ICT環境の満足度調査を実施する。	2月に全学生対象でFormsでの満足度調査を実施した。	S
【図書館】			
3-13　図書、学術雑誌、視聴覚資料等が系統的に収集・整理されているか。	図書等を適切に管理するとともに、新規図書等を適切に収集する。	図書管理、新規図書購入を実施している。	A
3-14　図書、学術雑誌、視聴覚資料等は有効に活用されているか。	図書等の利用状況を調査する。	利用実績等を収集している。	A
3-15　図書、学術雑誌、視聴覚資料等が有効に活用されるための取り組みを行っているか。	図書等の利用を促進する取り組みを実施する。	ポスターコンクール、ブックハンティング等利用推進のイベントを実施した。また、図書館だよりを年2回発行した。	A
【ガイダンス】			
3-16　準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	新入生オリエンテーションを適切に実施した。	A
3-17　専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	1学期および3学期の開始時、学年ごとにオリエンテーションを実施した。また、2年生に対しては4月に学位授与申請に関する説明会を実施した。	A
3-18　編入生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	編入生に対する教育上のガイダンスを実施する。	留学生オリエンテーションと併せて編入生オリエンテーションを行っている。 今年度は、編入生が在籍していないため行っていない。	A

S：特に優れている　A：良好である　B：概ね良好である　C：不十分である　－：該当なし

検証（点検）項目		実施計画	実施状況	評価
3-19	留学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	留学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	留学生オリエンテーションを適切に実施した。	A
3-20	障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	入学時に提出する健康調査票に記載のあった学生や出身中学校から障害に関して連絡のあった学生に対して修学支援に関する説明を行った。必要に応じて保護者に対しても面談を実施した。オープンキャンパスでは参加者の個別相談に対応するため、修学支援関係のブースを設けた。学生本人や保護者、担任、カウンセラー等から支援依頼があった場合はその都度学生等と面談を行って要望を伺い、可能な支援について説明を行った。	A
3-21	社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	社会人学生は、他の学生と同じオリエンテーションに参加することとしている。固有の問題があれば専攻科及び指導教員が対応することになっている。今年度は、社会人学生の入学はないため行っていない。	A
【学生のニーズ把握・支援】				
3-22	担任制・指導教員制は有効に機能しているか。	本科においては、担任指導、担任情報共有会を実施する。 専攻科においては、指導教員マニュアルを配付し、指導教員による指導を行う。	担任のしおりの配付及び担任情報共有会を4回実施した。 サイボウズに指導教員マニュアルを用意しており必要に応じて指導教員がダウンロード可能である。新任教員を対象として5月に専攻科生指導のための説明会を開催している（今年度は希望者がいなかったため開催していない）。	A
3-23	オフィスアワーは有効に機能しているか。	オフィスアワーを実施し、利用者数を把握する。	前期・後期での実施計画を作成して周知した。教員に年度末に学生相談室が行う相談件数調査では、4,000件強の報告があった。	A
3-24	保健室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	年度末に利用実績を集計した。	A
3-25	相談室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	年度末に利用実績を集計した。	A
3-26	キャリア相談室・資料室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	教育コーディネーター1名が対応した学生のキャリア相談件数は146件（実数43名）であった。また、卒業生のUターンシステム利用相談件数は7件（実数4名）であった。キャリア支援室では利用状況を数値化し各学科へ発信することにより、キャリア教育の質向上を図っている。	A
3-27	（障害学生）修学支援は有効に機能しているか。	ウォッチリスト等により対象学生を把握するとともに支援状況を適宜学科に報告する。	修学支援室において対象学生のウォッチリストを作成し、月に1回程度、学生支援センター会議、修学支援室会議で情報共有した。支援が必要な学生および気になる学生については、学科長を中心に関係教員に情報共有した。 ウォッチリストに記載のある学生について適宜面談を実施するとともに、記載の有無にかかわらず支援依頼があった場合はその都度学生等と面談を行った。7名の面談を行い、学生支援計画書4件、修学支援願3件を受け付けた。	A
3-28	学生への経済的支援（授業料免除、各種奨学金）は有効に機能しているか。	実績を把握する。	実績を把握した。	A
3-29	資格・検定試験支援制度は有効に機能しているか。	実績を把握する。	技能検定を新たに支援対象に追加し、資格取得者の増加を図った。受験者に対して技術指導を実施した。	S
3-30	海外への留学支援は有効に機能しているか。	実績を把握する。	留学交流室において、海外研修プログラムを策定し、募集を行った。（夏季：プログラム10件、研修参加者：62名、春季：3件、参加者18名）海外研修実施にあたり、渡航前にオリエンテーションを実施した。夏季海外研修の成果報告会を実施した。	A
3-31	学生会あるいは学生との懇談会を実施しているか。	学生会との懇談会を実施する。	定期的（週1回）に学生会との懇談会を実施した。	A
【キャリア指導・支援】				
3-32	進路指導ガイダンスを実施しているか。	ジェネリックスキルにおいてキャリア教育を実施する。	就職及び進学が決定した現5年生に対し8月にアンケートを実施し、キャリア教育の効果を調査した。その結果を踏まえ、ジェネリックスキルにおけるキャリア教育に関する内容の見直しを行った。第3学期のジェネリックスキルにおいて、一部内容を変更し、キャリア教育を実施した。	S
3-33	進学・就職に関する説明会を実施しているか。	進学・就職に関する説明会を実施する。就職・進学活動に関するガイドブックを配布する。	就職進学活動ガイドブックの内容を見直し、大幅な改訂を行った。 12月11日に合同企業研究会を、12月18日、20日に「就職・進学活動のメンタルヘルス講習会」を実施した。	S
【課外活動】				
3-34	課外活動に対する支援は有効に機能しているか。	学生会を通じた活動費の配分や課外活動指導員の採用などの支援を行う。	活動実績に伴い活動費を配分した。	A

S：特に優れている　A：良好である　B：概ね良好である　C：不十分である　－：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
3-35　課外活動に対する責任体制は適切であるか。	責任体制を明確にするとともに、教員と学生に周知する。	課外活動に係る活動方針の見直し及び周知を実施した。	A
3-36　課外活動に対する責任体制は有効に機能しているか。	責任体制が有効に機能しているか検証する。	6月から、課外活動巡視員を2名雇用し、土曜日のクラブ活動における安全管理体制の整備を行った。	S
【学生寮】			
3-37　学生寮は生活の場として有効に機能しているか。	生活の場として有効に機能しているか検証する。	寮生会を通じて、学生の要望や意見の集約を行った。	A
3-38　学生寮は勉学の場として有効に機能しているか。	勉学の場として有効に機能しているか検証する。	寮生会主催で週に1回程度、低学年生を対象とした勉強会を実施した。全20回行い、1回当たり約90分、高学年の寮生7～8名が講師として指導等を行った。	S
3-39　学生寮の管理・運営体制は有効に機能しているか。	管理・運営体制が有効に機能しているか検証する。	帰省・外泊を行う学生について、保護者にさくら連絡網で通知することとし、1月から運用を開始した。	A
【いじめ防止・対策】			
3-40　いじめ防止・対策のための体制が整備されているか。	いじめ対策委員会の規則及び体制が適切か確認する。	いじめ対策委員会と学生支援センターとの協力体制により、いじめ防止及び早期発見に努めている。	S
3-41　いじめ防止・対策の組織が有効に機能しているか。	いじめ対策委員会を定期的に開催する。	いじめ対策委員会を定期的に6回開催した。	A
基準4　財務基盤及び管理運営			
【財務】			
4-1　貸借対照表等による財務状態は適切であるか。	適切な会計処理を実施する。	恒常的な収入を確保し、月次決算等で確認している。	A
4-2　運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の経常的な収入を確保しているか。	適切な会計処理を実施する。	支出超過とならないよう月次決算等で確認している。	A
4-3　収支状況が支出超過となっていないか。	適切な会計処理を実施する。	支出超過とならないよう月次決算等で確認している。	A
4-4　収支に係る方針、計画が適切なプロセスで決定されているか。	適切なプロセスで予算を決定する。	予算WGの答申を受けて、「今後の予算方針について」を策定し、予算に関する基本方針等を定めた。本方針に基づき予算配分を行うとともに、今年度から、経費節減策及び増収のための方策を実施している。	S
4-5　収支に係る方針、計画は適切であるか。	予算計画が適切であるか検証する。	6月に予算委員会を開催し、当初予算配分を決定し、戦略的かつ計画的な予算管理を目的とした配分を行った。	A
4-6　収支に係る方針、計画は教職員に明示されているか。	予算計画を教職員に明示する。	運営委員会で報告後、サイボウズにて明示した。	A
4-7　収支に係る方針、計画と資源配分が整合しているか。	予算と資源配分の整合性を検証する。	当初予算配分に基づき予算配分し、追加予算については都度、予算委員会を開催して決定している。	A
4-8　財務状況が法令に基づき適切に作成・公表されているか。	財務状況を作成し、公表する。	本校の財務状況を要覧にて公表している。なお、法人の財務諸表を高専機構本部にて作成し公表している。	A
4-9　財務に係る監査が適切に実施されているか。	適切な監査を実施する。	11月に高専間相互内部監査を受講し、「指摘事項なし」であった。	A
【管理運営】			
4-10　管理運営体制が有効に機能しているか。	管理運営体制が有効に機能しているか検証する。	各種委員会を整備し、定期的または必要に応じて開催している。	A
4-11　管理運営に係る委員会が有効に機能しているか。	管理運営に係る委員会が有効に機能しているか検証する。	各種委員会を定期的または必要に応じて開催し、所掌事項を審議・報告している。	A
4-12　校長、主事等の役割分担は適切であるか。	校長、主事等の役割分担が適切であるか検証する。	副校長、主事の役割分担を見直し、副校長を2人体制とすることで、適切な役割分担とした。	A
4-13　教員と事務職員の役割分担は適切であるか。	教員と事務職員の役割分担が適切であるか検証する。	学則や規則等に定めており、必要に応じて見直しを行っている。	A
4-14　教員と事務職員との連携体制が有効に機能しているか。	教員と事務職員の連携体制が有効に機能しているか検証する。	教員と事務職員で構成する委員会を整備し、所掌事項を審議・報告している。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
【危機管理】			
4-15 危機管理体制は有効に機能しているか。	危機管理体制が有効に機能しているか検証する。	リスク管理室会議を20回開催し、適宜機構本部とも連携して危機対応を行った。	A
4-16 危機管理マニュアルは適切であるか。	危機管理マニュアルの見直しを行う。	危機管理マニュアルについて、目次と本編の冒頭に「学生の重大事案等対応の手引き」の参照について記載した。「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制（高専→機構本部）」及び「宇部高専災害物品リスト」を更新した。また、「宇部工業高等専門学校における災害対策について」を定め、災害時の管理体制及び災害時用備蓄物資の確保・更新について明文化し、別紙としてマニュアルに統合した。	S
4-17 危機に備えた訓練を実施しているか。	避難訓練を実施する。	10月に防火避難訓練を実施するとともに、学生及び教職員を対象として安否確認訓練を実施した。	A
【外部資金の活用】			
4-18 外部資金を獲得する取り組みを行っているか。	外部資金獲得のための講演会や説明会を実施する。	KRAによる説明会を開催し、学内外の科研費ブラッシュアップを実施した。 (課題)ブラッシュアップ利用の啓発と研究ネットワークの構築支援	S
4-19 公的資金が適切に管理されているか。	公的資金を適切に管理する。	日常監査及び内部監査により、公的資金が規則等に基づき適切に管理されていることを確認している。	A
4-20 公的資金を適切に使用するための取り組みが行われているか。	公的資金の不正使用防止のための研修を実施する。	全教職員を対象とした公的資金の適正使用に関する研修を3月に実施。理解度チェックで誤認のあった教職員に、個別に対応を行うなど、不正使用及び不適正経理の防止に努めた。	A
【外部教育資源の活用】			
4-21 外部の教育資源を有効に活用しているか。	外部教育資源を有効活用する。	各部署の要望等をふまえ、外部機関との協定等を締結・更新し、交流を行っている。	A
【スタッフ・ディベロップメント】			
4-22 SDが適切に実施されているか。	学内SDを実施する。また、機構主催のSDに職員を派遣する。	事務職員の業務能力向上・業務理解促進のため、各課課長補佐、係長または主任を講師とする学内SDを6月～12月に実施した。また、教職員の業務のDX化推進に資するため、2月～3月に学外から講師を招聘しSDを実施した。その他に、高専機構や大学、人事院主催の研修に参加させた。	A
【情報公開】			
4-23 法令に従い、学校の目的及び3つの方針が公表されているか。	学校の目的及び3つの方針をHPにより公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-24 法令に従い、教育研究上の基本組織が公表されているか。	組織図をHPにより公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-25 法令に従い、教員組織、教員の数並びに教員が保有する学位及び業績が公表されているか。	教員組織、教員の数、学位、業績をHPにより公表する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-26 法令に従い、入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況が公表されているか。	各種データを学校要覧に記載するとともにHPにより公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-27 法令に従い、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画が公表されているか。	シラバス一覧、シラバス及び行事予定表をHPにより公開する。	HPにて公開している。	A
4-28 法令に従い、学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準が公表されているか。	成績評価基準、卒業・修了認定基準をHP（学則・教務規則）により公開する。	HPにて公開している。	A
4-29 法令に従い、校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境が公表されているか。	学校の施設・設備及び教育研究環境をHP（学校要覧）により公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-30 法令に従い、授業料、入学金その他の高等専門学校が徴収する費用が公表されているか。	授業料、入学金その他の費用をHP（学校案内）により公開する。	学校案内、HP等にて公開している。	A
4-31 法令に従い、高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援が公表されているか。	修学支援室、キャリア支援室、学生相談室及び保健室等の支援体制をHP（学校要覧）により公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-32 学校の目的及び3つの方針が教職員、学生に周知されているか。	学校の目的及び3つの方針を学内関係者に周知するとともにHPにより公開する。	HP等にて公開し周知している。	A

S：特に優れている　A：良好である　B：概ね良好である　C：不十分である　－：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
基準5 準学士課程の教育課程・教育方法			
【教育課程の編成・内容・方法】			
5-1 カリキュラムポリシーに照らし、授業科目の配置は適切であるか。	授業科目の配置が適切であるか議論する。	適切であると判断した	A
5-2 一般教育は充実しているか。	一般教育が充実しているか議論する。	充実していると判断した。	A
5-3 進級に関する規定は適切であるか。	進級に関する規定が適切であるか議論する。	情報教育推進室会議で、現状の進級要件を踏まえR8年度新カリキュラムについては、低学年の単位数を揃えることとした。その結果を、改組に伴う学則変更に反映させた。	A
5-4 授業を行う期間は35週が確保されているか。	35週を確保する。	行事予定表を作成する際に35週を確保している。	A
5-5 特別活動は90単位時間以上確保されているか。	90単位時間以上確保する。	ホームルーム実施計画表を作成する際に確認、90単位時間以上を確保した。	A
5-6 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえた教育課程における配慮がなされているか。	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請を踏まえ、教育課程における配慮を行う。	アントレプレナーシップ教育の導入を推進している。プロジェクト学習に11件のアントレ課題を設定し実践した。さらに、宇部市高校生ビジネスプランコンテストに3グループがエントリーし、優秀賞を受賞した。宇部市SDGs私たちの未来共創補助金を3つの学生グループが採択された。第2回高専起業家サミットで3件の学生グループが発表した。また、ジェネリックスキルのにおいてもアントレプレナーシップに関する2本の動画を公開した。 海外・語学研修等の海外渡航者数が100名を超え、オンキャンパスの活動もU-Camp等を加え充実した。前年度よりも多くの学生が留学し、グローバルエンジニア育成事業に係る学生数が増えている。	S
5-7 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。	創造力を育む教育方法の工夫を行う。	プロジェクト学習に11件のアントレ課題を設定し実践した。さらに、宇部市高校生ビジネスプランコンテストに3グループがエントリーし、優秀賞を受賞した。宇部市SDGs私たちの未来共創補助金に3つの学生グループが採択された。第2回高専起業家サミットで3件の学生グループが発表した。また、ジェネリックスキルのにおいてもアントレプレナーシップに関する2本の動画を公開した。	A
5-8 実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。	実践力を育む教育方法の工夫を行う。	リサーチワークショップ、卒業研究を実施している。	A
5-9 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の点検・改善活動を行っているか。	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の点検・改善活動を行う。	1、2年生に理解度アンケートを実施して点検・改善活動を行った。	A
【授業形態・学習指導法】			
5-10 カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	講義、演習、実験・実習の配置について議論する。審議内容を議事録に残す。	各学科で議論し、適切であると判断した。	A
5-11 教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。実施内容は職務上の活動に関する自己申告書により申告する。	授業改善アンケート 兼 授業改善計画書の結果を改善につなげている。	A
5-12 シラバスが適切に作成および改善されているか。	シラバス作成マニュアルを配布し、シラバスを適切に作成する。シラバスの改善状況を調査し、成績資料点検表に記録する。	各学科で議論した結果、一部の学科から「成績評価資料点検時までに資料作成が間にあわなかった科目があり確認できない科目があった。早期に作成するよう促すとともに、提出後改めて点検を行うこととした。」と回答があった。	B
5-13 学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。初回授業ではシラバスを配布する。	授業改善アンケート 兼 授業改善計画書の結果により調査している。	A
5-14 教員はシラバスを有効に活用しているか。	職務上の活動に関する自己申告書により、教員のシラバス活用状況を調査する。	職務上の活動に関する自己申告書により調査している。	A
5-15 学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。初回授業で事前・事後学習課題一覧を学生に配布する。	授業開始時に事前・事後学習課題を学生に説明して、その一覧を成績資料ファイルに綴じることとしている。	A
5-16 学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	授業改善アンケート集計結果で把握し、必要に応じた改善を行うように教務委員会で説明することとしている。	A
【成績評価・単位認定・卒業認定】			
5-17 成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。各学科内で点検し、議事録に記載する。	各学科で議論した結果、一部の学科から「成績評価資料点検時までに資料作成が間にあわなかった科目があり確認できない科目があった。早期に作成するよう促すとともに、提出後改めて点検を行うこととした。」と回答があった。	B

S：特に優れている　A：良好である　B：概ね良好である　C：不十分である　－：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
5-18　単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	各学科で議論した結果、一部の学科から「成績評価資料点検時までに資料作成が間にあわなかった科目があり確認できない科目があった。早期に作成するよう促すとともに、提出後改めて点検を行うこととした。」と回答があった。	B
5-19　成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	アンケートを実施した。	A
5-20　試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	試験返却時間割を作成して、実施している。	A
5-21　試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。点検結果は学科会議の議事録に記載する。	各学科で議論した結果、一部の学科から「成績評価資料点検時までに資料作成が間にあわなかった科目があり確認できない科目があった。早期に作成するよう促すとともに、提出後改めて点検を行うこととした。」と回答があった。	B
5-22　複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。点検結果は学科会議の議事録に記載する。	各学科で議論した結果、一部の学科から「成績評価資料点検時までに資料作成が間にあわなかった科目があり確認できない科目があった。早期に作成するよう促すとともに、提出後改めて点検を行うこととした。」と回答があった。	B
5-23　卒業認定基準を学生に周知しているか。	卒業認定基準を学生に周知する。	入学時に配布する学生便覧および学校HPに教務規則を掲載することで周知している。	A
5-24　卒業認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	卒業認定基準の周知状況をアンケートにより調査する。	Formsにより卒業・進級認定基準についての理解度調査を実施している。	A
基準 6　準学士課程の学生の受け入れ			
【準学士課程の学生の受け入れ】			
6-1　アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	APに沿った学力選抜試験を実施した。	A
6-2　アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。	APに沿った推薦選抜試験を実施した。	A
6-3　アドミッションポリシーに沿った帰国生徒選抜試験が実施されているか。	APに沿った帰国生徒選抜試験を実施する。	APに沿った帰国生徒選抜試験を実施した。	A
6-4　入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学生がAPに沿っているか検証する。特に、推薦選抜試験による入学者に対しては、採点基準が適切であるか分析する。	令和 6 年度推薦選抜試験による合格者について、APに従った面接評価点を抽出し、それぞれ優秀な評価点を得ていることを確認することができたため、採点基準は適切であると判断した。	A
6-5　検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	検証した結果、優秀な学生を獲得できていることが確認できたため、次年度入試でも現行の採点基準を継続する。	A
6-6　入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	各学科の令和 6 年度入学者数は、定員40名に対して、40～43名であり、適切であると判断した。	A
6-7　入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合に、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	今年度入学においては、定員に対する入学者に大きな過不足が生じていないため、該当しない。定員に対する入学者に大きな過不足が生じた場合は、入学試験委員会で改善計画を策定することとなる。	－
基準 7　準学士課程の学習・教育の成果			
【準学士課程の学習・教育の成果】			
7-1　成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業及び進級認定会議を実施する。	卒業認定会議及び進級認定会議を実施した。	A
7-2　卒業時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業時に学生へのアンケート調査を行う。	卒業時に学生へのアンケート調査を行った。回答者のほぼ全員が学習・教育到達目標に掲げる能力が身についたと答えている。	A
7-3　卒業生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和 4 年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	宇部高専の教育に関するアンケート（5 年に一度）回答結果も踏まえて、情報教育推進室会議や教務委員会で協議を行っている。	A
7-4　就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和 4 年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	宇部高専の教育に関するアンケート（5 年に一度）回答結果も踏まえて、情報教育推進室会議や教務委員会で協議を行っている。	A
7-5　進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和 4 年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	宇部高専の教育に関するアンケート（5 年に一度）回答結果も踏まえて、情報教育推進室会議や教務委員会で協議を行っている。	A
7-6　就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	就職率は100.0%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A
7-7　進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	進学率は100.0%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A

S：特に優れている　A：良好である　B：概ね良好である　C：不十分である　－：該当なし

検証（点検）項目		実施計画	実施状況	評価
7-8	就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものであるか。	各学科のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。検証結果は学科会議議事録に記載する。	就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものであると判断した。	A
基準 8 専攻科課程の教育活動				
【教育課程の編成・内容・方法】				
8-1	カリキュラムポリシーに照らし、適切な授業配置となっているか。	授業科目の配置が適切であるか各専攻に審議を依頼する。	専攻科委員会で各学科に審議を依頼し、各学科の回答より適切であることを確認した。	A
8-2	専攻科の教育課程は準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか。	専攻科の教育課程が準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか各専攻に審議を依頼する。	準学士課程のカリキュラム改善を受け、令和5年度より準学士課程の教育を発展させた新カリキュラムとなっている。現カリキュラムの課題については各学科に審議依頼するとともに専攻科1年生に対しアンケートを実施し、その結果を専攻科委員会で報告した。	A
【授業形態・学習指導法】				
8-3	カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	講義、演習、実験・実習の配置が適切であるか各専攻に審議を依頼する。	専攻科委員会で各学科に審議を依頼し、各学科の回答より適切であることを確認した。	A
8-4	教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。実施事項は職務上の活動に関する自己申告書に記載する。また、各専攻に学習指導上の工夫に関するアンケートを実施し、専攻科委員会でまとめる。	授業改善アンケート 兼 授業改善計画書の結果を改善につなげている。	A
8-5	学生への教養教育や研究指導が適切に行なわれているか。	教養教育や研究指導を適切に行う。	2月に専攻科1年生に対しアンケートを実施し、その結果を第8回専攻科委員会で共有した。	A
8-6	シラバスが適切に作成および改善されているか。	シラバス作成マニュアルを配布し、シラバスを適切に作成する。シラバスの改善状況を調査する。	各学科で議論した結果、一部の学科から「成績評価資料点検時までに資料作成が間にあわなかった科目があり確認できない科目があった。早期に作成するよう促すとともに、提出後改めて点検を行うこととした。」と回答があった。	B
8-7	学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。初回授業ではシラバスを配布する。	授業改善アンケート 兼 授業改善計画書の結果により調査している。	A
8-8	教員はシラバスを有効に活用しているか。	職務上の活動に関する自己申告書により、教員のシラバス活用状況を調査する。	職務上の活動に関する自己申告書により調査している。	A
8-9	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。初回授業で事前・事後学習課題一覧を学生に配布する。	各学科会議で議論し、適切に行われていると判断した。	A
8-10	学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	2月に専攻科1年生に対しアンケートを実施することにより授業外学習時間を調査した。この結果、3時間以上と回答した学生の割合は9％となっていることから、次年度は授業外学習を促すための方策について議論する。	A
【成績評価・単位認定・卒業認定】				
8-11	成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。学科会議にて審議し、会議議事録に記載する。	各学科で議論した結果、一部の学科から「成績評価資料点検時までに資料作成が間にあわなかった科目があり確認できない科目があった。早期に作成するよう促すとともに、提出後改めて点検を行うこととした。」と回答があった。	B
8-12	単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	各学科で議論し、適切であると判断した。	A
8-13	成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	アンケートを実施した。	A
8-14	試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	授業改善アンケート 兼 授業改善計画書の結果により実施状況を確認した。	A
8-15	試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。専攻科委員会や学科会議にて審議し、会議議事録に記載する。	各学科で議論した結果、一部の学科から「成績評価資料点検時までに資料作成が間にあわなかった科目があり確認できない科目があった。早期に作成するよう促すとともに、提出後改めて点検を行うこととした。」と回答があった。	B
8-16	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。点検結果は学科会議議事録に記載する。	各学科で議論した結果、一部の学科から「成績評価資料点検時までに資料作成が間にあわなかった科目があり確認できない科目があった。早期に作成するよう促すとともに、提出後改めて点検を行うこととした。」と回答があった。	B
8-17	修了認定基準を学生に周知しているか。	修了認定基準を学生に周知する。	1、3学期開始時のオリエンテーションにおいて説明した。また、入学時に配布する学生便覧および学校HPに履修等に関する規則を掲載することで周知している。	A
8-18	修了認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	修了認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	2月に専攻科1年生に対しアンケートを実施することにより修了認定基準の認知状況を調査した。この結果、91%の専攻科生が修了認定基準を認知していることが確認できた。	A

S：特に優れている　A：良好である　B：概ね良好である　C：不十分である　－：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
【専攻科課程の学生の受け入れ】			
8-19　アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	7月17日にAPに沿った学力選抜試験を実施した。	A
8-20　アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。	5月23日にAPに沿った推薦選抜試験を実施した。	A
8-21　アドミッションポリシーに沿った社会人選抜試験が実施されているか。	APに沿った社会人選抜試験を実施する。	7月17日にAPに沿った社会人特別選抜試験を実施した。	A
8-22　入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学生がAPに沿っているか検証する。	休学者を除き、入学者全員が2年間の修業により修了することができていることから入学生がAPに沿っていると判断した。	A
8-23　検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	8-22により、今年度の改善は必要でないと判断した。	A
8-24　入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	令和6年度入学者は29名（定員の1.45倍）であり、適正である。	A
8-25　入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合に、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	令和6年度入学者は29名（定員の1.45倍）であり、大幅な超過はない。	－
【専攻科課程の学習・教育の成果】			
8-26　成績評価・修了認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了認定会議を実施する。	修了認定会議を令和7年2月7日に実施した。	A
8-27　修了時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了時に学生へのアンケート調査を行う。	専攻科2年生を対象に令和7年1～2月に実施した。	A
8-28　修了生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	現カリキュラムは令和4年度のアンケート結果を受けた改善がなされている。	A
8-29　就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	現カリキュラムは令和4年度のアンケート結果を受けた改善がなされている。	A
8-30　進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	現カリキュラムは令和4年度のアンケート結果を受けた改善がなされている。	A
8-31　就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	就職率は100%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A
8-32　進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	進学率は100%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A
8-33　就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	各専攻のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。	就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものであると判断した。	A
基準9　研究活動の状況			
【研究活動の体制】			
9-1　研究活動の目的、方針は適切であるか。	本校の研究活動の目的及び方針が適切であるか審議する。	適切であると判断した。	A
9-2　研究活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	研究活動の目的を達成するための方策等を委員会及び推進室会議において審議する。	研究活動の目的を達成するため、校長裁量経費申請要件を見直した。	S
【研究活動の状況】			
9-3　研究活動が十分に行われているか。	研究活動の状況を把握する。	研究活動は十分に行われており、地域共同テクノセンターNews & Reportにまとめられている。課題としては、校長裁量経費の配分方法の改善、が挙げられる。	A
【研究活動の成果】			
9-4　目的、方針に沿った研究活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った研究成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表する。	研究活動は本校の目的・方針に沿っていると判断する。また、それらの成果は地域共同テクノセンターNews & Reportに集約され、公表されている。	A
基準10　地域貢献活動等の状況			
【地域貢献活動の体制】			
10-1　地域貢献活動の目的、方針は適切であるか。	地域貢献活動の目的及び方針が適切であるか審議する。	適切であると判断した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である －：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
10-2 地域貢献活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	地域貢献活動の目的を達成するための方策等を委員会及び推進室会議において審議する。	有効に機能していると判断した。課題としては、地域貢献活動担当教員の負担軽減のための実施体制の見直し、が挙げられる。	A
【地域貢献活動の状況】			
10-3 地域貢献活動は十分に行われているか。	地域貢献活動の状況を把握する。	U-16プロコン山口大会及びそれに伴う事前講習会を実施し、協賛企業が増加（21社→27社）した。 2月28日に開催したテクノカフェにおいて18件の学生の取組をT&B会員企業に紹介した。	S
【地域貢献活動の成果】			
10-4 目的、方針に沿った地域貢献活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った地域貢献活動の成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表する。	地域貢献活動は本校の目的・方針に沿っていると判断する。また、それらの成果は地域共同テクノセンターNews & Reportに集約され、公表されている。	A